新型コロナウイルス感染症　第5波（7～9月）の振り返り

令和3年11月4日（木）
山梨県感染症対策センター
（山梨県CDC）

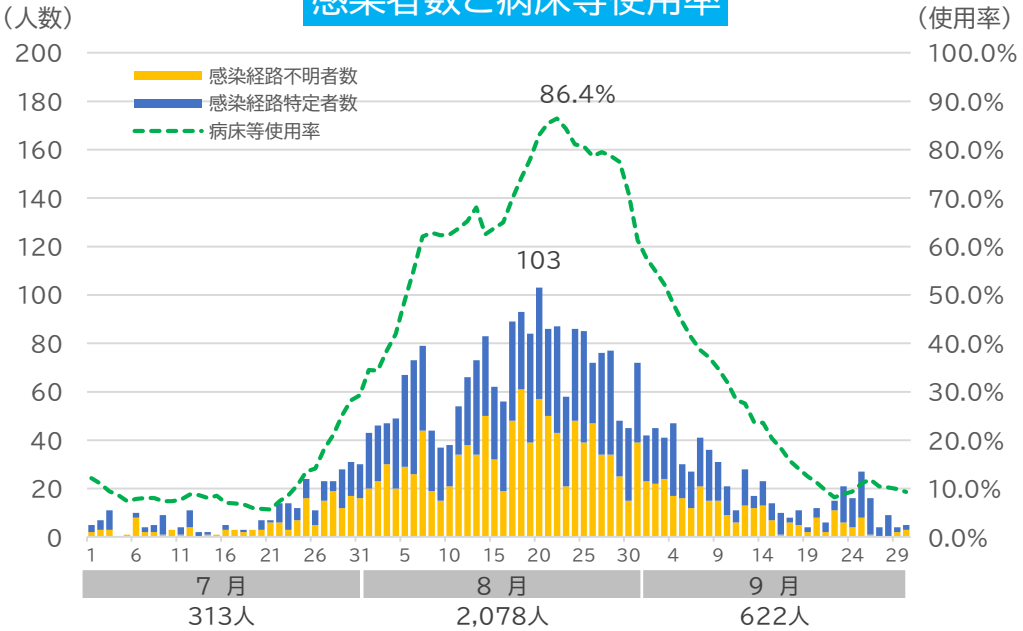
1　感　染　状　況　概　況

（感染者数）
- デルタ株への置き換わりにより、7月下旬から増加し、8月は過去最多の感染者数に（2,078人）。
- 8/20に103人/日を記録した後減少に転じ、9月中下旬には10～20人/日へ減少。

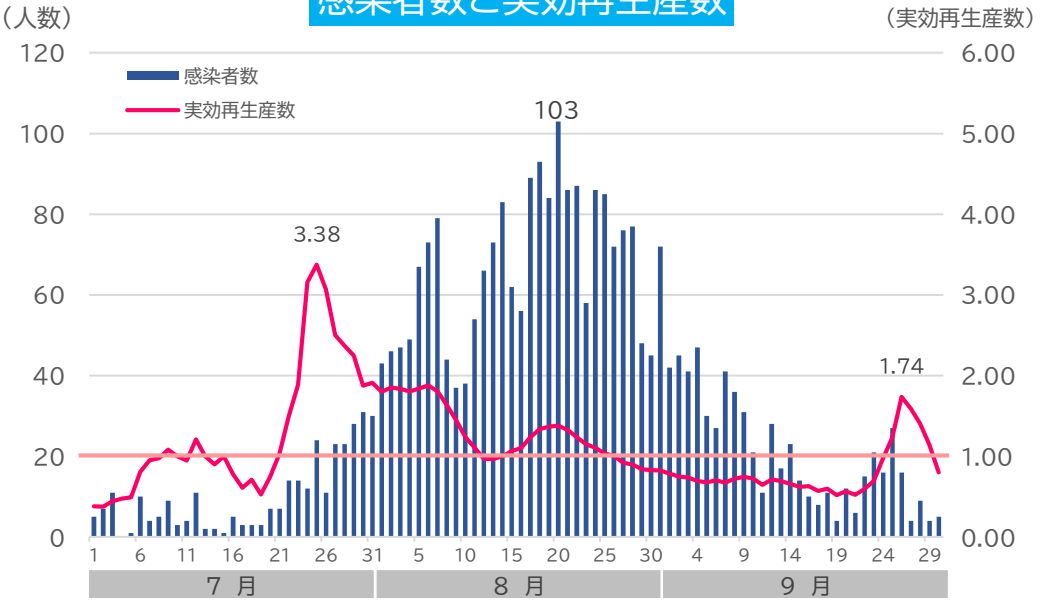
（医療提供体制）
- 病床等使用率※が7月下旬以降急上昇し、8/22には86.4%を記録。
  ※重症病床を除く病床及び宿泊療養施設を合算した使用率
- 病床の増床や新規宿泊療養施設の開設による医療提供体制の増強と感染者数の減少により病床等使用率は8月下旬以降低下し、9月末には10%以下に。

（実効再生産数）
- 7/21に1.00を超過し、8/26までの37日間が感染拡大局面、その後は1. 00未満で推移し、9月下旬に一旦増加したが再び1.00未満となり、感染が収束。

感染者数と病床等使用率



感染者数と実効再生産数

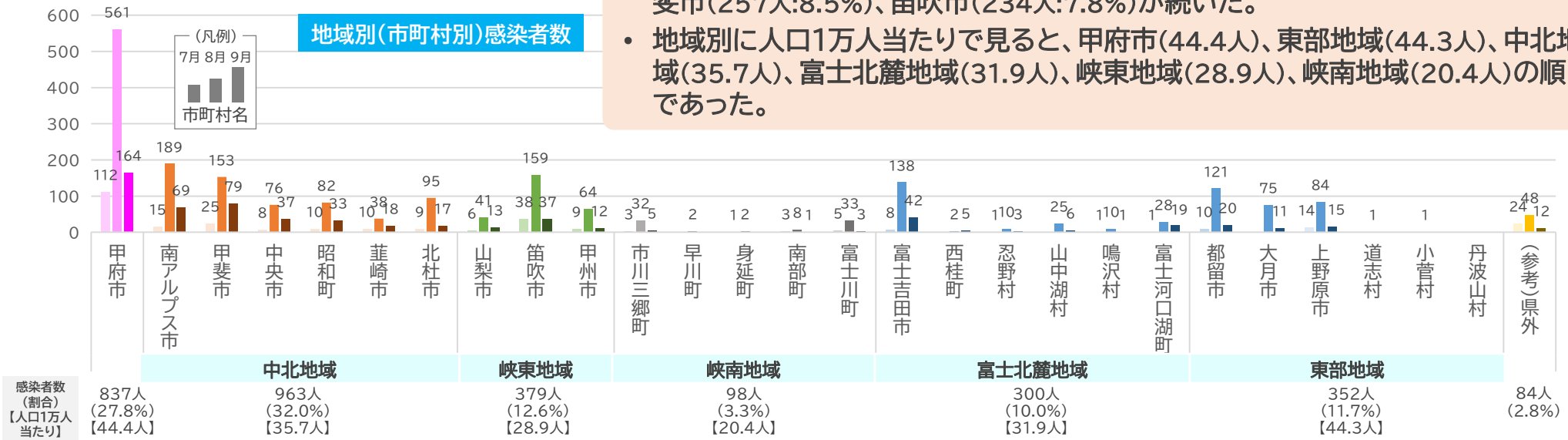


2 属　性　別　状　況

地　域　別

- 市町村別では、甲府市が837人(27.8%)で最多。南アルプス市(273人:9.1%)、甲斐市(257人:8.5%)、笛吹市(234人:7.8%)が続いた。
- 地域別に人口1万人当たりで見ると、甲府市(44.4人)、東部地域(44.3人)、中北地域(35.7人)、富士北麓地域(31.9人)、峡東地域(28.9人)、峡南地域(20.4人)の順であった。

地域別(市町村別)感染者数

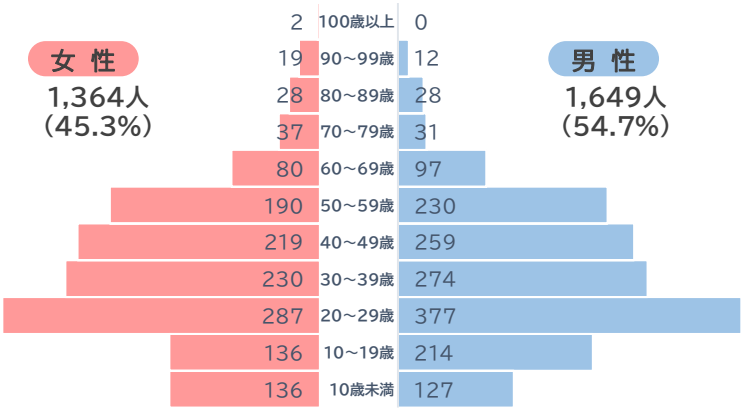


感染者数(割合)【人口1万人当たり】	中北地域	峡東地域	峡南地域	富士北麓地域	東部地域	(参考)県外
	837人 (27.8%) 【44.4人】	963人 (32.0%) 【35.7人】	379人 (12.6%) 【28.9人】	98人 (3.3%) 【20.4人】	300人 (10.0%) 【31.9人】	352人 (11.7%) 【44.3人】	84人 (2.8%)

性別・年代別

男性が約55%、女性が約45%で、いずれも20代、30代、40代、50代の順で多かった。

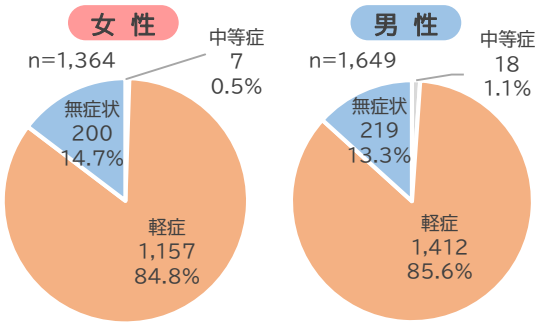
性別・年代別感染者数



性別・重症度別

男女とも、軽症が約85%、無症状が15%弱であった。

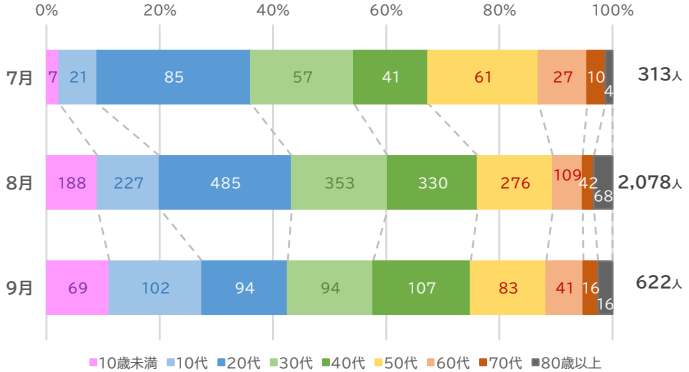
性別・重症度別感染者数



月　別　・　年　代　別

7~9月のいずれの月も30代までの感染者が全体の半数を超えていた。

月別・年代別感染者数



3 対策の実施状況

協力要請等の実施

8月の感染急拡大を受け、臨時特別協力要請を行うとともに、新型インフル特措法に基づくまん延防止等重点措置の対象区域に追加されたことを受け、飲食店等への休業要請及び大規模集客施設等への休業または入場制限要請を実施し、人流抑制による感染拡大防止を図った。

実施内容	8月 6日	臨時特別協力要請：不要不急の外出・移動自粛、イベント等開催制限、県外観光客の来県自粛要請等（～8/22）
	8月14日	臨時特別協力要請改訂：飲食店等への休業要請、大規模集客施設等への休業または入場制限要請
	8月18日	協力要請及びまん延防止等重点措置：不要不急の外出・移動自粛、イベント等開催制限、県外観光客の来県自粛要請等に加え、改めて飲食店等へ休業要請、大規模集客施設等へ営業時間短縮要請（8/20～9/12）
	8月24日	協力要請改訂：学校向けの分割授業の実施やオンライン授業の活用、必要最小限での部活動・クラブ活動の実施、学校行事の可能な限りの延期を要請

医療提供体制の増強

8月の感染者の急増に伴う療養者の増加を踏まえ、医療提供体制の増強・強化を図った。

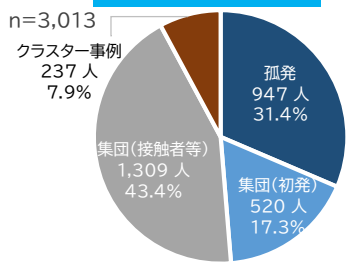
実施内容	病床	305床を62床増床し、合計367床を確保（8/24～） ※10月18日に9床増床し、現在は合計376床
	宿泊療養施設	既存3施設（計536室） ＋新規施設： 4か所目（8/31開設 中央市 137室）＋ 5か所目（9/22開設 甲府市 133室） → 合計806室 ※10月1日に6か所目（甲府市：160室）を開設し、現在は合計966室
	医療強化型宿泊療養施設	宿泊療養施設のうち、2施設を、医師・看護師が常駐し、点滴や酸素吸入などの治療や処方薬の投与を行う「医療強化型の宿泊療養施設」として稼働。
	退所後ケア	病院に入院または宿泊療養施設に入所している者のうち、無症状で、一定の基準を満たし、かつ、医師が可能と判断した者について、看護師による毎日の健康観察、24時間体制のオンコール相談など、安心安全な療養体制のもと、自宅で療養する退所後ケアの運用を開始。

4 事例及び対策の検証等

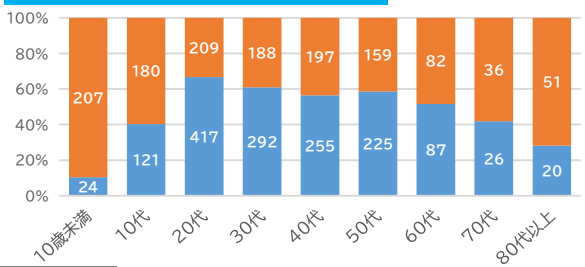
① 年代別の孤発・集団事例

全体では、孤発例が約32%、集団事例が約60%、クラスターが約8%。
最多の20代は経路不明割合、集団の初発となる割合が最も高かった。

孤発と集団(全体)



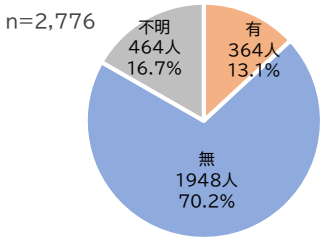
感染経路特定・不明割合(年代別)



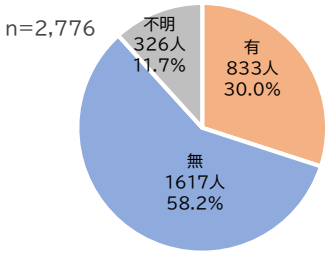
② 行動履歴

クラスター事例を除く感染者の内、県外移動歴があったのは約13%、会食等の履歴があった者は約30%。いずれも20代の割合が最も高かった。

県外等移動歴(全体)



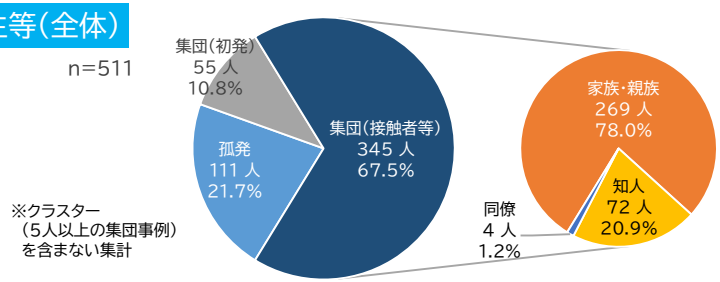
会食・飲食歴(全体)



③ 学生等別の孤発・集団事例

感染経路不明者は約32%、うち孤発例が約67%、集団事例初発者が約33%。
感染経路は家族・親族が最も多く、学校内よりも家庭内で感染が拡大。

学生等(全体)

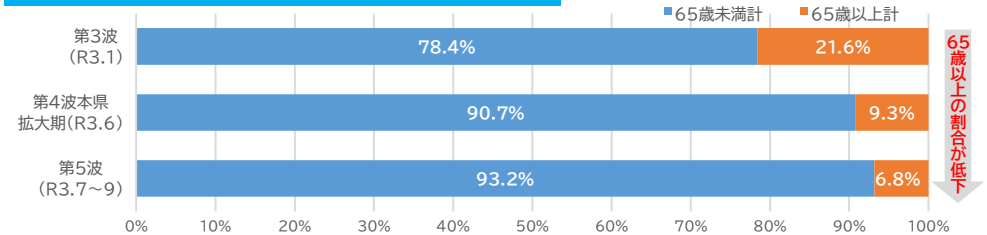


※クラスター
(5人以上の集団事例)
を含まない集計

④ 高齢者(65歳以上)の事例

第5波期間中は206人(約7%)と、第3波(約22%)から割合が低下しており、ワクチン接種の効果により増加が抑えられている。

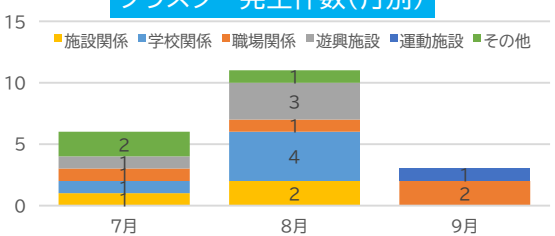
65歳以上(ワクチン接種層)の感染者割合推移



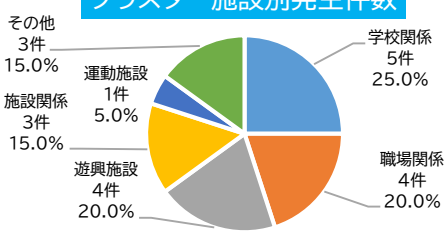
⑤ クラスターの発生状況

クラスターは20件発生(感染者数237人)で、学校関係、職場関係・遊興施設、施設関係、運動施設の順に多かった。

クラスター発生件数(月別)



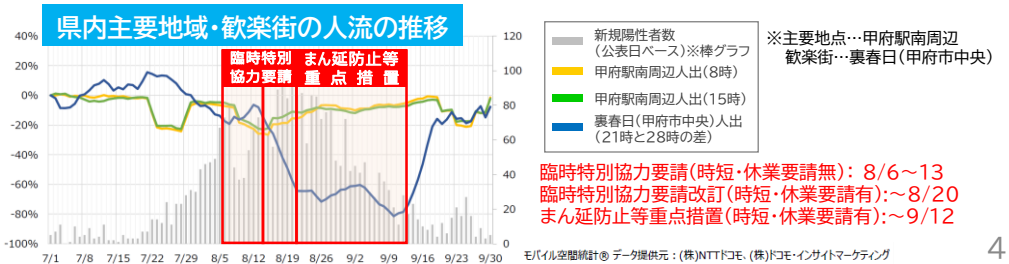
クラスター施設別発生件数



⑥ 対策の効果

本県独自の臨時特別協力要請及びまん延防止等重点措置期間、主要地点は△20%、歓楽街は最大△80%の減少が見られた。

県内主要地域・歓楽街の人流の推移



臨時特別協力要請(時短・休業要請無)：8/6~13
臨時特別協力要請改訂(時短・休業要請有):~8/20
まん延防止等重点措置(時短・休業要請有):~9/12

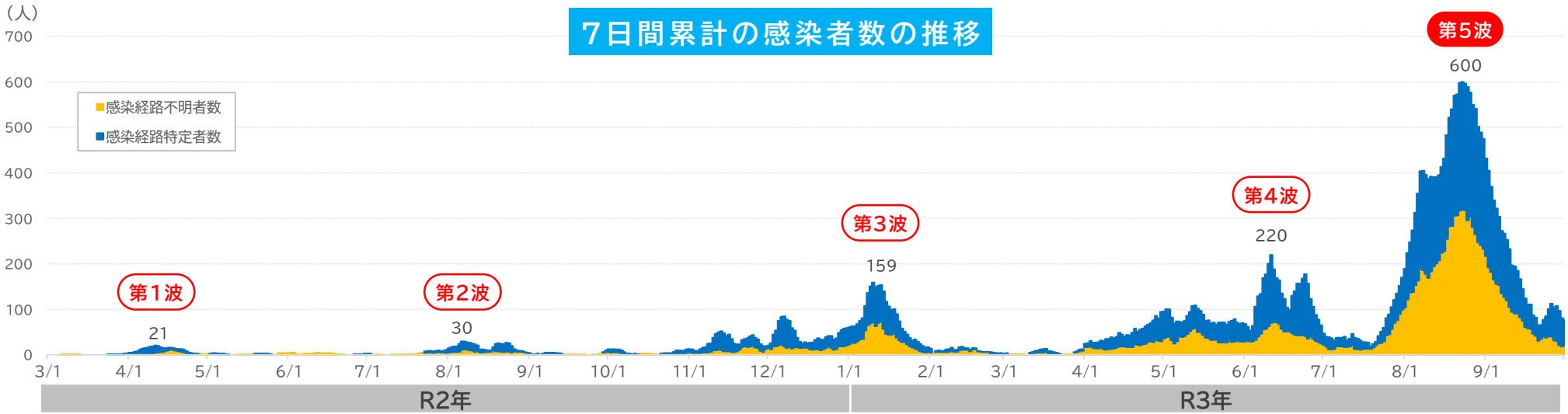
5 総括・今後の感染拡大に向けて（県CDC藤井総長）

第５波の総括

- これまでで最大の波となり、1日当たり感染者数(103人)と入院・療養者数(706人)がともに過去最多に。
- 感染者が短期間に急増したため、入院・療養者も増え、一時、病床等使用率が8割超に。
- 約2か月間の第5波で発生した感染者数は、昨年3月の県内初感染者確認から9月末までの19か月間の総感染者数の約6割を占めており、感染拡大の大きさは明らか。

【要因分析】

- 働く世代の夏季休暇、子供の夏休み、帰省など、通常とは異なる人の動きが増えたことにより感染の機会が増加。
- 加えて、感染力が強いデルタ株に置き換わったことにより若年層にも感染が拡がった。
- ワクチン接種が進んだことにより高齢者の感染は抑えられた。
- 感染が拡大するにつれ、感染経路不明の感染が拡がり、県内各地域での感染に繋がった。
- これらの要因が相乗的に影響し、かつてない感染規模になったと考えられる。



今後の感染拡大に向けて

- 感染者が増減する時期など、昨年とほぼ同様のパターンで推移してきており、11月後半には感染者が再び増える可能性がある。
- 感染の波が毎回大きくなってきているため、次に来る第6波は第5波より大規模になる可能性も。

- 感染者が第5波以上に増えても対応できる医療提供体制、宿泊療養体制の増強を図り、必要な人が適切に治療療養できる体制の確立を図る必要がある。
- 感染拡大を抑えるため、できるだけワクチンを接種してもらいたい。
- ワクチン接種後も、引き続き、身体的距離の確保、マスク着用、手洗いといった基本的な感染対策を継続してもらいたい。
- 冬季は暖房使用により換気がおろそかになりがちなため、特に定期的な換気に留意してもらいたい。